

広報 ひろば

たいせつ

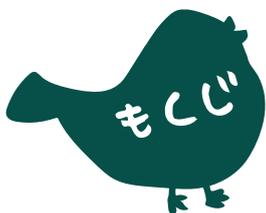


2021 vol.226

<http://www.jataisetu.or.jp/>



11/25 青年部学習会



令和3年産米の作柄と次年度に向けて	02 ~ 04
主要野菜の発育経過と病害虫の発生状況について	05
令和4年産に向けた青果物の営農計画をしましょう	06 ~ 07
たいせつ HOT ニュース	08 ~ 12
事業継承(家族経営)・法人化をお考えの方へ	
明日の担い手	13
チラシ電子帳簿保存法が改正されました	14
JA グループ通信	15
理事会・監事会からのご報告・たいせつのあゆみ	16
年末年始営業のお知らせ	
日本農業新聞電子版のお知らせ	

令和3年産米の作柄と次年度に向けて

上川農業改良普及センター

1 水稲の生育経過（上川農業改良普及センター本所の作況調査より）

(1)融雪～育苗期（表1）

本年は3月の気温が平年より高く推移したため、融雪期は平年より8日早い4月1日となりました。は種期は平年より1日早い4月19日となり、出芽期は平年より1日早い4月24日となりました。5月4半旬から5半旬にかけて高温条件が続き、苗の徒長や老化が一部見られましたが、移植時の苗質は平年並となりました。耕起状況は、4月の日照時間が確保され、ほ場が乾いたため、耕起始は平年より4日早い4月23日となり、耕起盛期は平年より3日早い4月28日となりました。

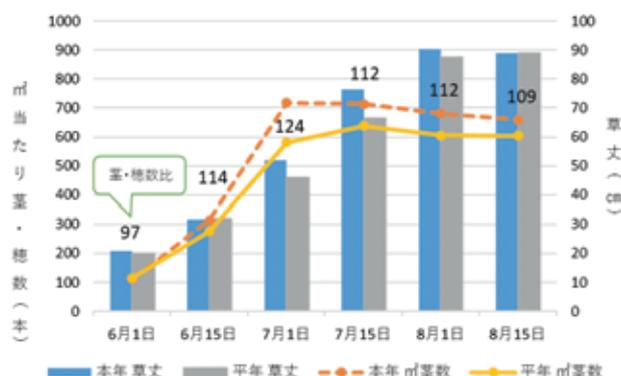


図1 草丈と茎・穂数の推移
(普及センター生育調査ほ ななつぼし 左横軸：茎・穂数、右横軸：草丈)

(2)移植～出穂（表1）

移植期は平年より1日早い5月22日でした。移植時に苗の老化や徒長がみられたほ場では、一部で植え傷みが生じ、活着が遅れるほ場も散見されました。6月1半旬以降は記録的な高温となり、日照時間も平年より多く推移しました。その結果、6月15日の生育調査では茎数が平年比114%となりました。（図1）幼穂形成期は平年より2日早い6月25日となりました。

7月も記録的な高温が続き、生育は順調に推移しました。その結果、止葉期は平年より3日早い7月10日、出穂期は平年より6日早い7月20日と生育は平年より早く進みました。茎数についても、7月15日での調査では平年比112%となりました。

表1 作業期節と生育期節の推移（上川農業改良普及センター作況調査ほ）

作業期節等	R3	平年	遅速	生育期節	R3	平年	遅速		
融雪期	4月1日	4月9日	早8	出芽期	4月24日	4月25日	早1		
耕起盛期	4月28日	5月1日	早3	活着期	5月26日	5月27日	早1		
は種	始	4月15日	4月16日	早1	分けつ始	6月3日	6月1日	遅2	
	期	4月19日	4月20日	早1	幼穂形成期	6月25日	6月27日	早2	
	終	4月26日	4月25日	遅1	止葉期	7月10日	7月13日	早3	
移植	始	5月17日	5月18日	早1	出穂	始	7月17日	7月21日	早4
	期	5月22日	5月23日	早1		期	7月20日	7月26日	早6
	終	5月28日	5月28日	±0		揃	7月25日	7月30日	早5
収穫	始	9月8日	9月18日	早10	成熟期	9月2日	9月13日	早11	
	期	9月16日	9月25日	早9					
	終	9月25日	10月6日	早11					

注) 品 種：ななつぼし
育苗様式：成苗ポット

(3)登熟状況と収穫（表1、2）

開花受精以降は日照時間が確保され、降水量も非常に少なく推移しました。そのため登熟が進行し、出穂期から成熟期までの登熟期間は平年より5日短い44日間となりました。成熟期は平年より11日早い9月2日となりました。収穫作業は好天により順調に進み、収穫期は平年より9日早い9月16日となりました。

玄米品質は、胴割粒が地域全体で見られました。また、「アカヒゲホソミドリカスミカメ」の吸汁による被害粒も一部のほ場で散見されました。

表2 令和元年～令和3年産水稲の玄米品位の状況（北海道農政事務所）

区分	整粒	未熟粒	乳白粒・腹白粒①	被害粒	死米・着色粒②	①+②
R3	63.0	24.5	6.3	12.5	1.1	7.4
R2	69.7	23.0	3.4	7.3	0.5	3.9
R1	65.2	26.8	4.7	8.1	1.3	6.0

※ふるい目幅 R2 1.9mm以上 R1、H30 1.85mm以上 単位：%

(4)病害虫の発生状況

本年は「イネドロオイムシ」の発生は少なかったものの、「ヒメトビウンカ」は昨年度並の発生がみられ、すす症状も散見されました。また、今年度は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」の発生がみられ、斑点米が発生したほ場も散見されました。「いもち病」は発生に好適な天候とならなかったことや、適切な防除が実施されたことから、発生が確認されませんでした。近年発生が目立つ疑似紋枯症については発生がみられましたが、箱粒剤など、適切な防除を実施したほ場では発生量の減少がみられました。

表3 稔実調査結果（旭川市東鷹栖・鷹栖町ほ場調査）

品種名	サンプル数	畦間	m ² 株数 A	株穂数 B	m ² 株数 C=A×B	1穂粒数 D	稔実歩合	不稔歩合 E	m ² 総粒数 F=C×D	m ² 稔実粒数 G=F×(100-E)/100
ななつぼし	8	33	22.4	29.2	654	57.0	96.4	3.6	37,283	35,940
平年比 (%)					116	91	100	81	106	107
ゆめぴりか	8	33	23.6	26.8	632	49.1	96.6	3.4	31,055	29,999
平年比 (%)					108	86	102	58	92	95
きらら397	8	33	22.8	31.2	711	47.2	95.6	4.4	33,756	32,099
平年比 (%)					116	90	101	79	104	105

※平年値：H28～R2の平均値（旭川市東鷹栖・鷹栖町）

2 水稲作柄の概況

農林水産省北海道農政事務所によると、10月25日現在における予想収量は上川管内で597kg/10a(1.9mmのふるい目幅)、作況指数は108と見込まれています。

普及センターが実施している稔実調査のうち、旭川市東鷹栖と鷹栖町の抜粋（各品種8サンプル）では、1穂粒数が平年より少なかったものの、m²穂数が平年より多かったため、m²当粒数は「ななつぼし」で106%、「きらら397」で92%、「ゆめぴりか」で、104%となりました。（表3）

表4 割れ粒発生率(%)

	ななつぼし	ゆめぴりか
本年	36.0	30.1
平年	25.8	14.8

（上川農業改良普及センター作況調査ほ）

表5 令和3年度の出穂期

生育期節	R3	平年	遅速
出穂	始	7月11日	7月21日 早4
	期	7月20日	7月26日 早6
	揃	7月25日	7月30日 早5

上川農業改良普及センター作況調査ほ

表6 アカヒゲホソミドリカスミカメ追加防除基準
（ほ場内を10往復20回振り）

割れ粒歩合 ランク	品種	要防除水準
少～やや少	きたくりん、吟風	3頭
中	きらら397、ゆめぴりか	2頭
やや多	ななつぼし、えみまる	1～2頭
多	ほしのゆめ	1頭



写真1 「アカヒゲホソミドリカスミカメ」



写真2 割れ粒の様子

3 次年度に向けて

○アカヒゲホソミドリカスミカメの発生について

本年は「アカヒゲホソミドリカスミカメ」（写真1）の発生が見られ、斑点米がみられたほ場も散見されました。斑点米が多発した要因として、6月から7月の気温が高く経過し、降雨が少なかったため「アカヒゲホソミドリカスミカメ」発生量が多かったことや、今年度は割れ粒の発生が多く、吸汁害が発生しやすかったと推測されます。（表4）

「アカヒゲホソミドリカスミカメ」は、出穂後、成虫・幼虫が、登熟中の粒の隙間(写真1)から玄米に口針を刺し、唾液で胚乳の表面を消化しながら吸汁します。出穂期以前の加害は斑点米とならず、散布時期が出穂期から遅れるにしたがい防除効果が低下するため、最も効果的な防除時

期は出穂期(表5)と出穂後7日～10日後です。3回目の防除については、すくい取りによる予察を実施し、カメムシの捕獲頭数が要防除水準に達していた場合に実施を検討しましょう。特に、割れ粃の発生が多い品種(ななつぼし、えみまるなど)は注意が必要です。(表6)

また、「アカヒゲホソミドリカスミカメ」は周辺のイネ科雑草で繁殖することから、ほ場の周辺雑草の刈り取り及び搬出を基幹防除前に終わらせることが非常に重要です。

○胴割粒の発生と対策について

本年は、出穂後の気温が非常に高温となり、降水量も少なく推移したことから、胴割粒の発生がみられました。胴割粒の発生は登熟期間にほ場の水分が不足することで発生が助長されます。用水が十分に確保できるほ場では、出穂が確認されたら直ちに入水し、浅水管理・間断かんがいを行いましょう。用水の確保が難しいほ場では、表7の管理を励行し、用水が広く行き渡るように、メリハリをつけた計画的な入水を心がけましょう。

落水は、玄米形成がほぼ完了する穂かがみ期(黄熟期：出穂期後25日目頃)以降に行うのが原則です。穂揃いの状況や登熟状況をよく観察したうえで落水しましょう。なお、湿田や透水不良田の落水時期は、出穂期～出穂期後7日目が目安です。

今年度は落水後の走水の有無で、胴割粒の発生割合に差がみられました(表8)。土壌表面が乾燥しすぎると大きな亀裂が入り、根が切断され水稻の吸水力が低下し、登熟不良や白未熟粒(心白・乳白・腹白粒)の発生を助長します。そのため、可能な限り走水を実施し、土壌水分の維持に努めましょう。土壌水分の目安は1cm以上の亀裂を入れない程度・足跡が軽くつく程度です。(水を張る必要はありません。)(写真3)

乾燥調製は、過乾燥や急激な高温乾燥にならないよう注意が必要です。乾燥開始時は40℃以下(毎時乾減率が0.5%程度)で乾燥を開始し、粃水分が25%未満になったら、通常で乾燥(毎時乾減率が0.5%～0.8%)します。ただし、立毛中に胴割粒が発生している(玄米判定段階で胴割れが確認されている)場合は、温度をかけずに通風のみで乾燥を開始し、粃水分をある程度落としてから温風に切り換えるようにし、その後の毎時乾減率も低め(毎時乾減率が0.5%程度)で、ゆっくりと乾燥を行うことが重要となります。

二段乾燥(図2)は胴割粒の発生を防止する重要な技術です。粃蔵が無い場合は、フレコンなどを活用して1次貯留を行う等、簡易的な二段乾燥も胴割粒の発生防止に有効です。

表7 用水の確保が難しいほ場での水管理

1	用水路、畦畔、水尻等の漏水防止を徹底しましょう。
2	ほ場を選択して1筆毎、確実に入水しましょう。
3	出穂時および出穂後7～10日後に水が行き渡るよう計画的に入水を行ないましょう。
4	可能な限り湛水状態を意地しましょう。

表8 胴割粒発生割合(鷹栖町)

事例	胴割れ米(%)	落水時期	落水後の走水
1	8.0	7月31日	未実施
2	1.1	8月6日	実施
3	2.4	8月12日	実施

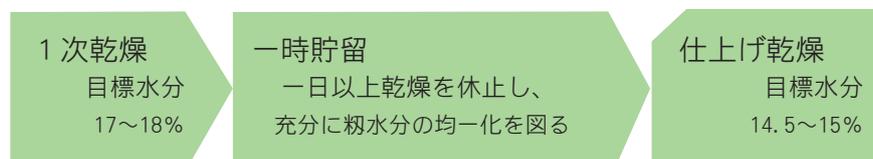


図2 二段乾燥の手順



写真3 登熟期間のほ場水分の目安

令和3年 主要野菜の生育経過と病害虫の発生状況について

	■ 生育経過 ■	■ 病害虫発生状況 ■
きゅうり 	<p>定植は平年並みに進んだが、5月中旬に一時高温があり一部ほ場で葉焼けの発生が見られた。5月末の気温の低下により、生育は緩慢になり生育はやや遅れ収穫開始は遅れた。</p> <p>6月下旬から8月上旬まで高温が続いたが、大きな障害は見られなかった。</p> <p>一時成疲れの時期はあったが、10月に入っても樹勢は保たれ出荷量も多かった。</p>	<p>7月中旬からうどんこ病、8月下旬からはべと病が見られてきた。</p> <p>9月中旬から降水量が多くなり、湿度も高くなったことで、べと病や菌核病、灰色かび病の発生が増加した。</p> <p>ハダニ、アブラムシの多発やスリップの食害が目立つほ場も見られたが、全体としては多発にはならなかった。</p>
原料トマト 	<p>定植後、生育は平年並みに推移したが、5月下旬の低温の影響で、一時生育が停滞した。6月からの高温の影響もあり、1段目の尻腐果が目立った。</p> <p>その後も高温が続き、着色が早まったことで7月下旬から出荷量は増加したが、その一方で、尻腐果や着色不良果、裂果の発生が多発した。</p> <p>生育が前倒しになったことと、8月上旬の高温による上段花房の着果不良もあり、9月以降の出荷量は減少した。</p>	<p>5月下旬に一時低温があり、灰色かび病の発生が見られた。</p> <p>9月に入りオンシツコナジラミの発生も見られたが、病害虫の発生は全体に少なかった。</p>
アスパラガス 	<p>6月下旬頃から8月上旬頃の高温と雨不足の影響で露地栽培の先端部分が少し枯れるものが散見されましたが単価等は平年の金額で推移しました。</p>	<p>茎枯病やアブラムシ・ヨトウムシが見られる場所もあったが、適期防除が行われたこともあり、大きな被害にはならなかった。</p>
軟白長ねぎ 	<p>5月頃の気温と日照不足が原因となり、あまり大きくならず、平年に比べても2L以上の規格の出荷が少なかった。</p>	<p>一部で、ダニの被害が見られたがそれ以外では特に病害虫の被害は見られなかった。</p>
ししとう なんばん 	<p>5月下旬の低温により収穫開始は遅れた。</p> <p>6月以降は高温に推移し、8月に成り疲れによる着果量の減少もあったが、全体に着果量は多かった。</p>	<p>5月下旬からアブラムシの発生が目立ち、その後も、継続して発生が見られた。</p>
丸さやいんげん 	<p>5月初め定植の早い作型では、着果良好で推移した。</p> <p>7月に開花した花では奇形果が多く見られたが、8月以降の着果は良好だった。</p>	<p>7月後半から、スリップスの発生が多くなった。</p> <p>8月下旬からは、オンシツコナジラミの発生も見られた。</p>
ほうれん草 	<p>4月下旬までの春まき作型では、生育がやや遅れた。</p> <p>6月上旬からの、高温の影響により生育が緩慢となり生育日数が長くなったことで、茎葉の伸長停止や抽台の発生が見られた。</p> <p>8月下旬からは気温も20℃前後で推移し、生育は回復した。</p>	<p>年間を通して、高温による立枯病や萎凋病、ホウレンソウケナガコナダニの発生が多かった。</p>

青果物の営農計画をしましょう！

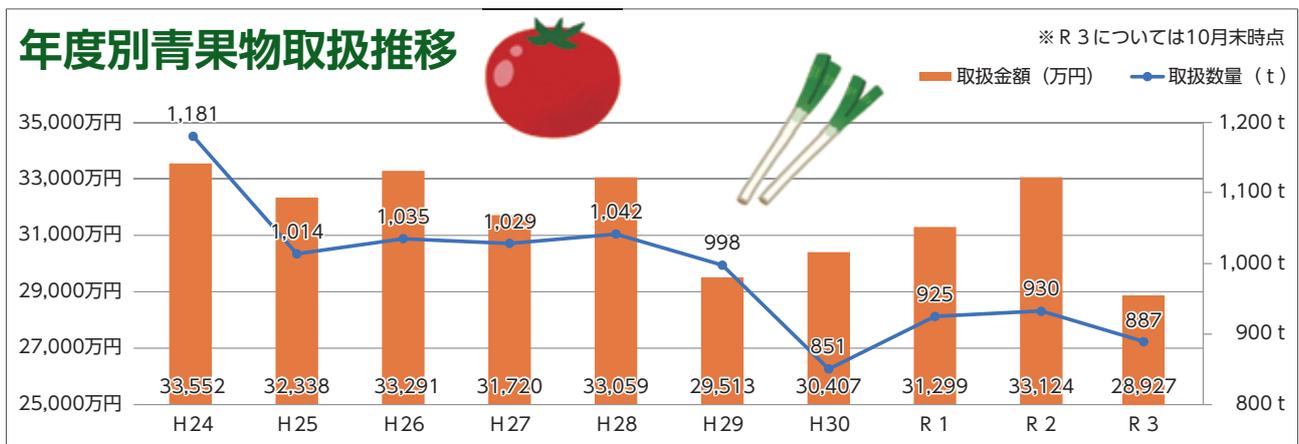
青果物の生産者を募集しています。“JA旭川青果物出荷組合連合会（以下 青果連）”では30部会が存在します。“旭川青果物生産出荷協議会 たいせつ支部（以下 青果協議会たいせつ支部）”は14品目が作付けされており、その中で9品目の『青果物営農計画表』を作成しました。

青果連では市場からの要望の高い品目について「重点推進品目」と設定しており、青果協議会たいせつ支部も同様に作付推進を図るため「重点品目」とし、計画表を作成しました。

『青果物営農計画表』を基に営農計画にお役立てください。

○旭川青果物生産出荷協議会 たいせつ支部 重点品目

- ・きゅうり・アスパラガス・原料トマト（オオカミの桃）・軟白長ねぎ
- ・ししとう・なんばん・激辛なんばん・さやいんげん・ほうれん草

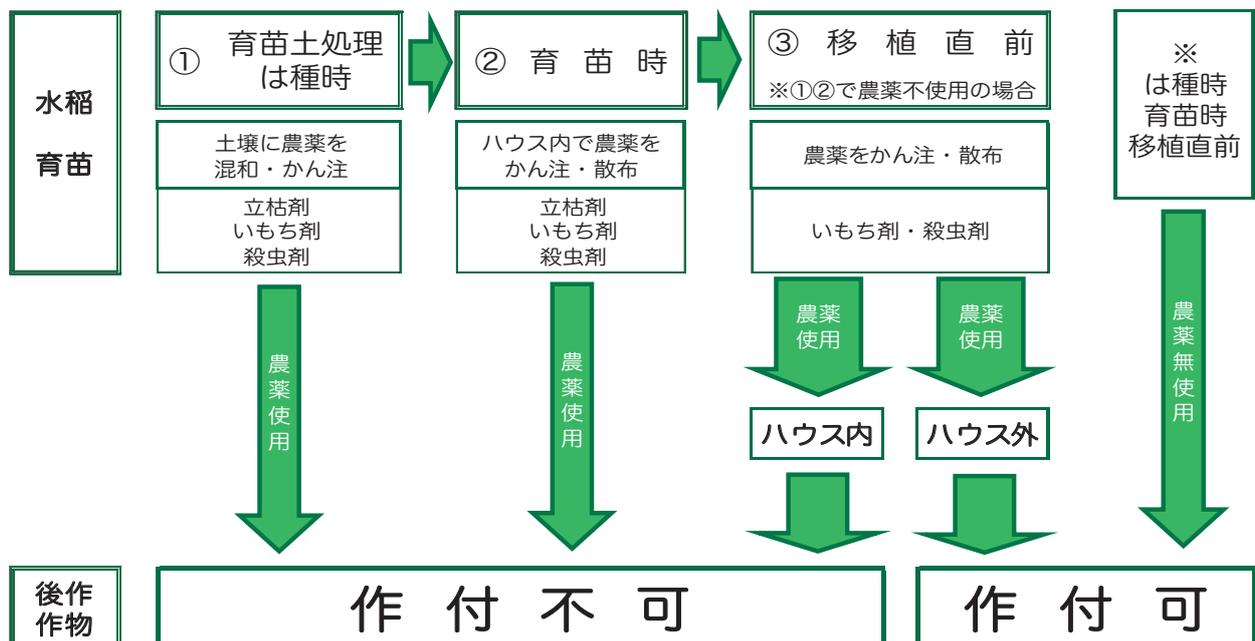


※ 水稻育苗後の作物栽培について ※

水稻ハウス内で農薬を使用した場合、**経過年数は関係なく**青果物の作付はできません。（下記参照）

※但し、土壌と隔離した養液栽培方法を活用した場合は水稻育苗の後作でも栽培可能です。

水稻育苗ハウスにおける農薬使用の有無による後作野菜等の作付可否



令和4年向け 青果物営農計画表

JA 旭川青果物出荷組合連合会 重点推進品目

葉菜類 ・ほうれん草・摘み取り春菊
果菜類 ・きゅうり・ピーマン・ミニトマト・ししとう・夏秋トマト
豆類 ・絹さやえんどう・丸さやいんげん

旭川青果物生産出荷協議会 たいせつ支部 重点品目

・きゅうり・アスパラガス・原料トマト (オオカミの桃)・軟白長ねぎ
・ししとう・なんばん・激辛なんばん・さやいんげん・ほうれん草

	きゅうり	アスパラガス	原料トマト	軟白長ねぎ	ししとう	なんばん	激辛なんばん	さやいんげん	ほうれん草
R3作付面積	348.0a	355.1a	345.9a	68.2a	10.0a	35.8a	25.5a	32.0a	31.1a
R4目標面積	400.0a	400.0a	400.0a	100.0a	20.0a	50.0a	30.0a	45.0a	50.0a
出荷期間目安	6～10月	4～9月	7～10月	5～10月	5～10月	5～10月	5～10月	6～10月	4～11月
1作あたり (kg/10a)	15,000	2,000	8,000	7,000	4,000	4,000	3,500	1,300	2,800
年間作付回転数	1作	1作	1作	1作	1作	1作	1作	1～3作	1～4作
主要(目標)規格	AM	2L(150g)	秀品	2L(1kg束)	AM50g	A品(5本入)	A品(5本入)	AS(2kg)	AM(150g)
平均単価 円/kg	330円	1,400円	180円	500円	1,100円	1,070円	1,400円	1,500円	750円
年間作業時間	1,489.9h	1,113.2h	875.4h	660.0h	3,822.5h	2,075.5h	2,075.5h	819.4h	229.5h
作業人数/10a	2～3人	2～3人	1～2人	1～2人	2～4人	2～3人	2～3人	1～2人	1～2人

千円/10a

販売額	4,950.0	2,800.0	1,440.0	3,500.0	4,400.0	4,200.0	4,900.0	1,950.0	2,100.0
肥料費	73.7	55.8	56.6	39.3	49.4	53.0	53.0	12.6	52.8
種苗費	311.2	56.7	145.8	457.8	243.2	238.1	238.1	7.4	41.4
農薬費	72.2	62.2	30.0	10.2	28.7	29.6	29.6	22.1	45.0
生産資材費	262.1	273.5	197.2	231.3	92.4	97.9	97.9	80.0	88.0
農機具費	2.5	51.7	1.4	44.4	17.1	19.7	19.7	0.0	5.3
動力光熱費	5.9	9.5	5.4	18.4	7.9	7.9	7.9	4.8	30.2
販売費用	1,387.9	316.0	52.1	610.5	938.3	710.8	831.4	524.9	447.2
差引手取額	2,834.6	1,974.6	951.5	2,088.1	3,023.0	3,043.0	3,622.4	1,298.3	1,390.2
所得率	57.3%	70.5%	66.1%	59.7%	68.7%	72.5%	73.9%	66.6%	66.2%

販売額	売立金(市場出荷した際の販売額)ほか
肥料費	肥料(化成、有機など)・土壌改良材・堆肥ほか
種苗費	種子(シーダーテープ含む)・苗代ほか
農薬費	殺虫剤・殺菌剤・植物調節剤ほか
生産資材費	ハウスビニール・ポリフィルム・マルチ・手竹・被覆資材ほか
農機具費	作業機・選果機・結束機ほか
動力光熱費	耕起・施肥・運搬・防除・ガソリン・灯油・電気・ガス・水道代ほか
販売費用	出荷運賃・販売手数料(農協・市場など)・共撰費・検査費・箱代・包装資材・会費

たいせつ支部で存在する部会

部会名	現会員数	備考
ねぎ部会	7戸	軟白長ねぎ⑥・夏秋長ねぎ①・小ねぎ(あさひかわ)
豆部会	20戸	丸さやいんげん⑩・絹さやえんどう①・枝豆③
グリーンアスパラ部会	14戸	たいせつ農協のみ
きゅうり部会	21戸	共撰場出荷
ほうれん草部会	7戸	
ししとう部会	3戸	
なんばん部会	14戸	なんばん⑩・激辛なんばん⑨
いちご部会	3戸	たいせつ農協のみ
玉ねぎ部会	9戸	たいせつ農協のみ
原料トマト部会	46戸	

11月2日(火) JAたいせつ青年部東鷹栖支部 廃ビニール・空袋回収作業が行われました



気温が低い寒空の中、JA たいせつ青年部東鷹栖支部による農業用廃ビニール・空袋回収作業が行われました。

毎年行う廃ビニール・空袋回収作業は、青年部が主体となり支部活動の一環として実施しており、7月2日に行われた1回目の作業に続く2回目の開催となりました。

当日は部員27名が参加し、作業はスムーズに進み、農業用ビニールや肥料袋、育苗箱、農薬ボトルなどを回収し処理業者に引き渡しました。

受入件数は97件で重量は約15トンとなりました。

参加いただきました部員の皆さん、お疲れ様でした。



11月12日(金) 第55回 JA北海道女性大会・北海道家の光大会 令和3年度「家の光記事活用体験発表」最優秀賞に選ばれました

今回は新型コロナウイルスの影響により、WEBにて開催されたJA北海道女性大会・北海道「家の光」大会の「家の光記事活用体験発表」に上川地区の代表として東鷹栖16区柿木 和恵さんが出場し、見事「最優秀賞」に選ばれました。

「家の光」の掲載記事から学んで実践した事や仲間に波及したことをテーマに、「東鷹栖食品加工販売協議会」の設立を中心とした内容で発表し、高い評価をいただきました。

今後、3月に横浜市で開催の全国家の光大会への出場を目指し、2月開催の都道府県代表体験発表大会(web)に出場します。



11月12日(金) JAたいせつハトムギ生産部会京都グレインシステム様との意見交換会開催

本年3月に設立したJA たいせつハトムギ生産部会は、京都グレインシステム(株)旭川工場にて研修会を開催しました。

本年産ハトムギの生産状況や、求められている製品の質などについて京都グレインシステム鈴木部長より説明していただいた後、実際に各生産者のハトムギを見比べながら意見交換を行い、来年の栽培方法などについても議論されました。近年新型コロナウイルスの流行により生産者同士の交流も少ない中、ハトムギ生産に対して生産者、売り手、買い手の意見交換ができ大変有意義な研修会となりました。



▲左から：調整ハトムギ・焙煎ハトムギ・ヨクイニン



▲鈴木部長から説明を受けている様子



▲今年度出荷のハトムギを見比べながら意見交換

11月24日(水) 新嘗祭協力に係る感謝状贈呈



宮中行事である新嘗祭に献上する米の今年度生産にご協力頂いた鷹栖地区瑞穂農事組合 谷口昇さんに、松原代表理事組合長から感謝状を贈呈しました。谷口さんはJAたいせつ地区の生産者皆が頑張っている中で、はじめは遠慮しようと思っていたが、推薦してもらい大変名誉あることに携われて本当に良かった。孫たちにもとても喜ばれたと話されました。感謝状の他に記念品と献穀田からできた「ゆめぴりか」をお渡ししました。



11月24日(水) 女性部部員交流会

JAたいせつ女性部では、本所事務所2階大会議室にて部員42名の参加により部員交流会を開催致しました。今回は片づけ空間デザイナーのはせがわ よしみ氏をお招きし、片づけのススめ~モノを減らしてオシャレな空間づくりへの道~と題してご講演いただきました。収納やモノを減らすポイントを中心にワークや動画を通じて学び、玄関やお部屋をオシャレに魅せるコツも教えていただき、部員の皆さんはメモを取るなど真剣な様子でした。これからのクリスマスや年末に向けて著書を参考に活用してみてください！



11月25日(木) 青年部学習会

本所営農センターにてJAたいせつ青年部学習会が行われました。新型コロナウイルスの感染状況が多少の落ち着きをみせた中で、久しぶりの青年部行事となりました。今回は3部に分けて、青果協議会たいせつ支部の青果物作付け推進に係る説明、鎌倉インダストリーズ(株)によるJAコネクト・1日農業バイトdayworkの説明、上川農業改良普及センターによる米の栽培技術についての学習会を行い、学習会では質問も多く、部員同士の意見交換も行う事ができ、有意義な学習会となりました。ご参加いただきました部員の皆さんお疲れ様でした。



11月16日(火) 第30回 JA 北海道大会が開催

北海道 550 万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』

令和3年11月16日(火)に札幌の共済ホールにて第30回 JA 北海道大会が開催されました。

大会は、新型コロナウイルス感染症対策として会場出席者人数を最小限に留めるため、本会場での出席は松原組合長のみとなり、山原専務をはじめとする役職員、青年部、女性部の代表者ら22名は本所事務所2階大会議室にてリモートによる参加となりました。



大会に先立ち、記念講演として株式会社農林中金総合研究所 理事長で元農林水産省 事務次官の皆川 芳嗣氏より、「2030年、2050年の地球とそこの中での北海道農業の姿 ～JAグループ北海道への期待～」を演題に地球環境、社会・経済の展望や人口減少・温暖化における農業・農村の諸課題への対応、北海道農業の夢とJAグループ北海道への期待などについてお話を頂きました。

【議案提案】

議案第1号は、【基本目標1】『「JA運営の好循環」に向けて対話の成果を实践～加速する社会・経済環境への適応～』とし、重点取組事項として①組合員とJA役職員は、各地域・JA固有の課題に加え、「JA運営のスパイラルアップ(好循環)」モデルの構築要素ごとに整理した「対話の着眼点」をもとに、対話の場に応じてテーマを選択し、工夫をこらして対話の充実に取り組む事。②対話を通じて農業・JAを取り巻く環境変化などを共有し、組合員からの意見・提案をふまえ、各組織における運用改革や新たな取り組みを反映した「実践方策(=対話の成果)」を設定し、その実践・改善を繰り返すことで、「JA運営を好循環」させることについて、設定の背景・課題、具体的な取り組みが提案されました。



議案第2号は、【基本目標2】『「JA運営の好循環」を支える人づくり・JA経営の強化』とし、重点取組事項として①JAグループ北海道は、人づくりがJA運営の基本活動であることを再確認し、改めて協同組合の本質や協同活動の意義の理解促進等、「JAグループ北海道人づくりビジョン・実践方策」で掲げる「目指す人材像」の実現に向けた環境づくりに取り組むこと。②「JA運営の好循環」に向けて、収支シミュレーションをもとにした収支改善サイクルの实践により、持続可能なJA経営基盤の確立・強化に取り組むことについて、設定の背景・課題、具体的な取り組みが提案され、それぞれ原案通り承認されるとともに、次の「大会決議」についても採択されました。

【大会決議】

「改革プラン」の策定以降、取り組んできた普段の自己改革を更なる高みに到達させるよう、組合員とJA・連合会は対話を通じて加速する社会・経済環境の変化を共有しながら「実践方策」を設定し、その実践・改善に取り組むものとする。

さらに、「人づくり、JA経営の強化」に取り組むことで「JAの好循環」を実現させ、将来ビジョン「北海道550万人と共に作る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」を達成するものとする。



令和3年度 JAたいせつ役員道外視察研修

JAたいせつ役員は、令和2年度事業において今後の事業展開へ向けての見識を深めることなどを目的に道外視察研修を計画しておりましたが、全国的な新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、実施を見合わせておりました。

令和3年10月1日にすべての地域における緊急事態宣言の解除を受け、事前のPCR検査や視察日程の短縮、2班に分散しての視察研修実施など、感染防止および安全対策を十分に行い、令和3年11月4日～6日と11月11日～13日の各3日間で石川県・岐阜県を中心に研修を行うこととし、「㈱JAアグリライン石川（石川県）」と「明和工業㈱（石川県）」の2社を訪問させて頂き、情報交換および意見交換を実施して参りました。

1、株式会社JAアグリライン石川（石川県金沢市専光寺町口114-1）

株式会社JAアグリライン石川は、平成13年4月に石川県経済連と全農の統合を経て、平成17年4月に石川県くみあい肥料㈱と石川県くみあい運輸㈱が合併し、現在の社名変更し、全農と石川信連の資本のもと、BB肥料の製造・販売、農業資材の製造・仕入・販売、農畜産物の加工・販売、運送事業、警備業などを事業展開しています。



ます。

今回の視察では、会社概要説明とBB肥料工場、資材センター、直売所「JAグリーン金沢」の視察・意見交換をさせて頂きました。

BB肥料工場は単肥原料を輸入し、最大12種類の配合が可能な設備が整えられ、用途に合わせた様々な混合・袋詰めを行っており、近年は1袋あたりの重量が軽い肥料への要望が高まりから、15kg袋を主流に10kgや5kgなどの製造も行い県内のJAへ供給しています。

資材センターは県内で生産される農産物の各種資材を取り揃えており、既製品資材の販売のほかにハウスパイプと農業ビニールの加工についても同センターで行いJAへ供給しています。

どの事業推進においても、県内農業の特徴や生産者・消費者ニーズを把握し、地域農業の発展に貢献する拠点として機能しており、肥料など生産資材の価格形成・維持などについて意見交換が行われました。

2、明和工業株式会社（石川県金沢市湊3丁目8番地1）

明和工業株式会社は、昭和39年に鉄工業として創業し、昭和46年に明和鉄工株式会社を経て、昭和62年に現在の社名となり、主に農業関連施設の公害防止設備、バイオマス利活用の事業展開を行っています。特に集塵装置では最大国内シェアは60%にまで達した実績があり、施設規模などに合わせた柔軟な設計が可能で、北海道内でも多くの乾燥調製施設へ設置実績があり、上川ライスターミナルへも湿式防音タイプが設置されています。



今回の視察では、会社概要や製造されている機械装置の説明、実験・試験棟の視察・意見交換をさせて頂き、特に同社が開発する「膨張軟化装置」に注目が集まりました。

近年、「もみ殻」の一次処理として「膨張軟化装置」の需要が高まり、道内へも18基ほどの設置実績があります。

「膨張軟化装置」は、もみ殻に水分添加・圧縮加圧と放出を行うことにより、急激な圧力変化による膨張力で組織内部から破壊し膨張軟化させます。軟化したもみ殻は分解速度が速くなることから、堆肥原料・家畜敷料など従来のもみ殻より用途拡大や効率向上が見込まれ、資源循環が可能となります。

視察した試験棟には、多くの実験・試験機器が並んでおり、同社の研究開発における情熱と苦労が感じられました。

今回の役員視察研修実施にあたり、コロナ禍による視察受入れからご負担の多い中、2班に渡りご協力を賜りました、2社様には心より感謝申し上げます。また、研修後には新型コロナウイルスへの感染などは確認されず、安全に研修が実施されたことをご報告申し上げます。



11月19日(金) JA たいせつ職員コンプライアンス研修

JA 北海道中央会旭川支所 島津遼真氏を講師に招き、当 JA 職員に対するコンプライアンス研修会を開催致しました。例年、全職員を一堂に会し研修を実施しておりましたが、コロナ禍の影響もあり全職員一堂での開催は難しく、各主要施設をリモートで繋ぎ、感染症対策を施した上での分散開催となりました。

本年は「個人情報保護の基礎知識」と題し、個人情報の取扱いに関する基礎知識や過去の漏洩事案、個人情報漏洩となった場合の事例について研修を実施し、組合員や地域利用者の皆様方からお預かりしている個人情報取扱いの重要性や保管管理の徹底を再認識致しました。

研修で学んだ内容を改めて適切に実践し、引き続き組合員や地域の皆様から信頼ある JA を目指して参ります。



▲講演頂いた JA 北海道中央会旭川支所 島津遼真氏

事業継承（家族経営）・法人化をお考えの方へ

親子間での事業継承や、法人化（個人事業から法人へ・複数戸法人など）をお考えの方で、検討されているが、なかなか前に進まないことなど小さなご質問でも JA にご連絡下さい。

事業継承では、農業経営を次世代の後継者へ引き継ぎ、農地、農業生産、JA の事業利用、補助事業、農業融資などを。

また、法人化においては、経営上のメリット・税制上のメリット・資金調達のメリットなどを専門家や、担当部署へおつなぎ致しますので、まずは農業振興課まで、お気軽にご相談下さい。

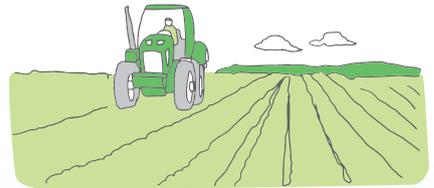
営農部農業振興課 57-2357 まで



「明日の担い手」

— J A たいせつ青年部 —

農家の世代交代が進む今日、たいせつ地域の農業を盛り上げていく若手農業者を不定期で紹介していきます。



森山 一裕



- ①：東鷹栖 12 区
- ②：35 歳
- ③：モノ作り・美術全般・写真・旅行・等々
- ④：やりたいことがなかったから。(今は楽しくやっています)
- ⑤：知識を増やし楽しく儲ける農家になりたい。
- ⑥：青年部に限らず研修会を開き学べる機会を増やして欲しい。

外川 光



- ①：東鷹栖 16 区
- ②：30 歳
- ③：食べること。すぐ寝れること。
- ④：田んぼが僕を呼んでいたから。
- ⑤：たいせつ地域の農産物を世にもっと広げたい！
- ⑥：農家戸数も減ってきていますので、これまで以上に密な関係を築き、たいせつ地域を発展させていきたいです！

開田 優作



- ①：東鷹栖 17 区
- ②：39 歳
- ③：卓球 (何年もやってませんが)・4 桁の数字を覚える
- ④：高校に入る時からやろうと決めてました。
- ⑤：規模拡大をしていき、地域の農地面積を維持していきたい。
- ⑥：コメだけでなく多品種多品目に対応出来るようになっていければ良いかなと思います。

- ①：所属農事組合
- ②：年齢
- ③：趣味・特技
- ④：就農のきっかけ
- ⑤：今後の営農にあたっての抱負
- ⑥：今後の J A への期待

高見 章太



- ①：東鷹栖 17 区
- ②：37 歳
- ③：バイク・スポーツ
- ④：農業大学を卒業した為。
- ⑤：作付け面積を増やし、先進的な技術を取り入れた営農。
- ⑥：組合員との連携や情報提供を更に充実させ、たいせつ農協の更なる発展を期待します。



電子帳簿保存法が改正されました

R3.05

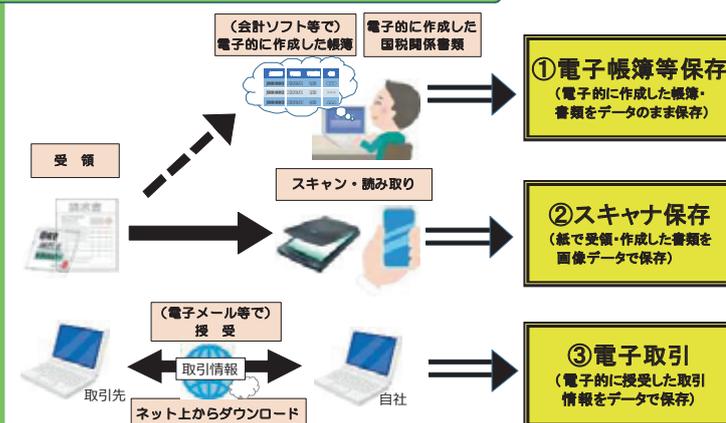
経済社会のデジタル化を踏まえ、経理の電子化による生産性の向上、記帳水準の向上等に資するため、令和3年度の税制改正において、「電子計算機を使用して作成する国税関係帳簿書類の保存方法等の特例に関する法律（平成10年法律第25号。以下「電子帳簿保存法」といいます。）」の改正等が行われ（令和4年1月1日施行）、帳簿書類を電子的に保存する際の手続等について、抜本的な見直しが行われました。具体的な改正内容は以下のとおりです。

導入

Q: そもそも電子帳簿保存法とは、どのようなものですか？

A: 各税法で原則紙での保存が義務づけられている帳簿書類について一定の要件を満たした上で電磁的記録（電子データ）による保存を可能とすること及び電子的に授受した取引情報の保存義務等を定めた法律です。
電子帳簿保存法上、電磁的記録による保存は、大きく右の3種類に区分されています。

～ 電子帳簿保存法上の区分（イメージ）～



～ 電子帳簿等保存(区分①)に関する改正事項 ～

1 税務署長の事前承認制度が廃止されました。

これまで、電子的に作成した国税関係帳簿を電磁的記録により保存する場合には、事前に税務署長の承認が必要でしたが、事業者の事務負担を軽減するため、事前承認は不要とされました（電子的に作成した国税関係書類を電磁的記録により保存する場合についても同様です。）。

令和4年1月1日以後に備付けを開始する国税関係帳簿又は保存を行う国税関係書類について適用

※ 令和4年1月1日以後も改正前の要件を満たして保存等を行おうとする方が承認を受けようとする場合には、承認申請書を令和3年9月30日までに所轄税務署長宛提出して頂くようお願いいたします（スキャナ保存も同様です。）。

2 優良な電子帳簿に係る過少申告加算税の軽減措置が整備されました。

一定の国税関係帳簿（注1）について優良な電子帳簿の要件（注2）を満たして電磁的記録による備付け及び保存を行い、本措置の適用を受ける旨等を記載した届出書をあらかじめ所轄税務署長に提出している保存義務者について、その国税関係帳簿（優良な電子帳簿）に記録された事項に関し申告漏れがあった場合には、その申告漏れに課される過少申告加算税が5%軽減される措置が整備されました（申告漏れについて、隠蔽し、又は仮装された事実がある場合には、本措置の適用はありません。）。

令和4年1月1日以後に法定申告期限が到来する国税について適用

（注1）一定の国税関係帳簿とは、所得税法・法人税法に基づき青色申告者（青色申告法人）が保存しなければならないこととされる総勘定元帳、仕訳帳その他必要な帳簿（売掛帳や固定資産台帳等）又は消費税法に基づき事業者が保存しなければならないこととされている帳簿をいいます。

（注2）電子帳簿の保存要件の概要（次頁）の“優良”の要件をご確認ください。

3 最低限の要件を満たす電子帳簿についても、電磁的記録による保存等が可能となりました。

正規の簿記の原則（一般的には複式簿記）に従って記録されるものに限られます。他の要件については、電子帳簿の保存要件の概要（次頁）の“その他”の要件をご確認ください。

令和4年1月1日以後に備付けを開始する国税関係帳簿について適用

区分②・③については下記国税庁ホームページよりご確認ください。

申請書の様式や電子帳簿保存法のQ&Aについては、国税庁ホームページ【<https://www.nta.go.jp>】に掲載しています（改正分は随時掲載していきます。）。詳しくは、 で



国税庁
(法人番号 7000012050002)

JA北海道中央会



JAグループ北海道では、令和3年11月16日に、第30回JA北海道大会を開催いたしました。本大会は、グループの基本方針を確認し関係者の意識を統一することを目的に、3カ年に1度、全道から組合員の皆さんの代表者が札幌に集まり開催しているものです。

今回の大会では、グループの将来ビジョン“北海道550万人※と共に創る「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」”を実現すべく、令和4～6年度におけるグループの基本目標として、「JA運営の好循環に向けて対話の成果を実践」「JA運営の好循環を支える人づくり・JA経営の強化」が定められました。

本決議をもとに、組合員・JA・連合会一丸となって、JA運営のスパイラルアップに繋がるよう取り組みましょう。

※550万人とは、「道民」と「北海道にゆかりのある道外の方々」のことを指します。



▲大会実行委員長挨拶を述べる中央会小野寺会長

JA北海道信連



特殊詐欺被害については、新聞・テレビなどで連日報道されている通り、新たな手口が拡がるなど大きな社会問題となっています。JAバンク北海道では、11月～1月にかけて、道内のJAバンク店舗でご来店者に対する声かけ運動を行うとともに、STVラジオでオリジナルコーナーを設け、北海道警察の専門家から、詐欺の手口や気を付けるポイントを説明いただくなど、啓発活動に取り組んでいます。JAバンクでは、引続き北海道警察と連携し、特殊詐欺被害の撲滅に向け取り組んで参ります。



JA共済連北海道



JA共済連では、地域社会貢献活動の一環として、昭和50年から毎年道内各市町村の消防本部に救急車を寄贈しております。今年度の寄贈台数は3台であり、十勝地区の中札内消防署、留萌地区の羽幌消防署、上川地区の上富良野消防署に寄贈いたします。

当年度の救急車の寄贈が完了しますと、寄贈させていただきました台数は累計で212台となります。

今後も行政とJAとの連携を図りながら、組合員ならびに地域住民に安心と安全の提供を続けるように努力してまいります。



ホクレン



ホクレンは、北海道日本ハムファイターズと共同で取り組んでいる「北海道農業応援プロジェクト」の一環として、10月1日に札幌ドームで開催された北海道日本ハムファイターズ vs 埼玉西武ライオンズ戦に協賛し、「ホクレン北海道農業応援ナイター」として試合が行われました。試合観戦に訪れた来場者に向けて北海道農畜産物のPRや農業への理解を深めてもらおうと特設ブースを設置。ホクレン大収穫祭などのチラシを配布するほか、大型ビジョンでCM放映を行うなどPR活動を行いました。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓発推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。本号ではプレゼント企画も行っております。QRコードからWeb上で閲覧・応募が可能となっておりますので、ぜひご応募ください。



↑ Web上の閲覧・応募はこちらから



JAグループ北海道の連合会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください



理事会からのご報告

令和三年十月二十六日第七回理事会で次の案件について協議し承認決定されました。

- 一、組合員の出資減口および持分譲渡承認について
相続による持分譲渡二件、持分譲渡一件、農地売却による減口一件について原案通り承認決定されました。
- 二、定款五十七条三項による組合と理事の契約承認について
理事二名に対する契約について原案通り承認決定されました。
- 三、旅費・実費弁償規程（別表）の一部改正について
原案通り承認決定されました。
- 四、労働保険事務組合事務処理規程の一部改正について
原案通り承認決定されました。

監事会からのご報告

令和三年十月二十六日第七回監事会で次の案件について協議し承認決定されました。

- 一、令和三年度期中自治柳卸監査について
例年通り十一月三十日（火）に実施する事が承認決定されました。
- 二、今後の日程について
原案通り承認決定されました。
- 三、その他
コンプライアンス事故報告、中央会委託内部監査（金融部・鷹栖支所）の結果、上川地区農協監事夏期研修会、二点について検討を行い、承認決定されました。

「たいせつ」のあゆみ

11月	11月1日	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月9日	11月11日	11月16日	11月19日	11月20日	11月24日	11月25日	11月30日
労働安全衛生委員会・企画会議 廃じ・肥料空袋回収	役員視察研修（第1班）	給油所たまたまキャンペーン・ 自動車展示会&除雪機展示会	上川地区組合長会視察研修	不要農薬回収	役員視察研修（第2班）	下期内部監査（金融部）	第30回JA北海道大会	職員会議・コンプライアンス委員会 令和4年度採用職員就職説明会	上川地区専務会視察研修	労働安全研修会	みのり監査法人期中II監査	期中自治柳卸	第8回理事会・第8回監事会 役員コンプライアンス研修会	中央会経営監査

年 末 年 始 の 営 業

	2021			2022						
	12月29日 (水)	12月30日 (木)	12月31日 (金)	1月1日 (土)	1月2日 (日)	1月3日 (月)	1月4日 (火)	1月5日 (水)	1月6日 (木)	1月7日 (金)
栖所給油所 鷹セルフ給油所	7:00 ~21:00 平常営業	平常営業	7:00 ~16:00	休業	9:00 ~16:00	9:00 ~16:00	平常営業	平常営業	平常営業	平常営業
栖所給油所 鷹セルフ給油所	7:00 ~19:00									
貯金店舗 本所窓口	平常営業 9:00 ~16:30	平常営業	休	休	休	休	平常営業	平常営業	平常営業	平常営業
支所窓口										
ATM 本所	平常営業 9:00 ~18:00	9:00 ~17:00 (※終業1時間繰り上げ)	業	業	業	業	9:00 ~17:00 (※終業1時間繰り上げ)	9:00 ~17:00 (※終業1時間繰り上げ)	9:00 ~17:00 (※終業1時間繰り上げ)	平常営業
支所										
本所・支所 本所・支所 本営農センター	平常営業 9:00 ~17:00	午前営業 9:00 ~12:00	休	休	休	休	休	休	平常営業	平常営業
メカニックセンター 整備工場			業	業	業	業	業	業		
農産物直売所	平常営業 10:00~ 17:00	平常営業							平常営業	平常営業

一年間のご愛顧に心から感謝申し上げますと共に、2022年（令和4年）もどうぞよろしくお願い致します。
JAたいせつ

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞 電子版

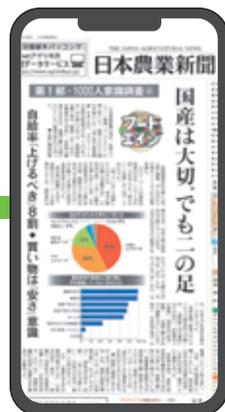
日本農業新聞は電子版を創刊。新聞本紙を基軸に、デジタルでの情報発信を強化します。農業所得と生産力を高め、地域活性化にも役立つ情報を伝えます。

電子版でできること

- いつでも、どこでも**
スマホやタブレットで、情報収集ができます。
- 過去記事検索が30日分**
見逃した記事もさかのぼって読むことができます。
- クリップ機能で記事を保存**
気になる記事を最大200件まで保存できます。

紙面ビューアーの特徴

- 読みやすさ、そのまま**
いつもの紙面と同じレイアウトです。
- 文字を大きく**
紙面を拡大・縮小できます。
- 紙面丸ごと印刷できる**
大事な記事の保存やスクラップに役立ちます。



月額料金 1 IDあたり 税込み2,623円(2,385円+税)

●初回登録月は、月末までの料金がかりません。
●電子版のみの料金です。紙版を併せて購読する場合は紙版の購読料が別途、発生します。

電子版のお問い合わせやお申し込みは、農業振興課までご相談ください。